

第58回熊本県芸術文化祭参加事業

ゼーロンの会演劇公演

# RICHARD III

2016年12月4日(日) 13時開場 14時開演

アスパル富合ホール

作/ウィリアム・シェイクスピア

演出・舞台美術/上村清彦 音楽監督/光永浩一郎 衣装/Yuriko マリオネット制作/永武

照明/三池一洋(サウンド九州) 音響/clues 広告媒体制作/西山幸治

特別協賛/ **(株)お菓子の香梅**

協賛/ 税理士法人 近代経営 社会活動放送局 東秀優税理士事務所 **伊弉諾野印刷所** (株)南栄開発 **紅蘭亭**  
(株)古木常七商店 西本会計事務所 Elite Dance Centre センターリバー (株)キューピアン (株)果実堂  
(株)井出事務所

後援/ 熊本県 熊本県教育委員会 熊本県文化協会 熊本商工会議所 熊本市 熊本市教育委員会

NPO 法人くまもと文化振興会 熊本日日新聞社 NHK熊本放送局 RKK TKU KKT KAB FMK FM791

協力/ 本妙寺 バレンタインデュウ 肥後リース(株) Comodo arts project

助成/ (一財)熊本市駐車場公社 公益信託 熊日文化スポーツ基金 (一財)熊本放送文化振興財団

## この門を過ぎんとするものは

憂(うれい)の国に行かんとするものはこの門を潜(くぐ)れ。  
永劫の呵責(かしゃく)に遭わんとするものはこの門をくぐれ。  
迷惑の人と伍(ご)せんとするものはこの門をくぐれ。

(『神曲』地獄篇第三歌 夏目漱石訳)

明治三十三年初冬のある日、留学先の英国でテムズ河をはさんだ対岸からロンドン塔を眺めていた夏目漱石は、突如、いわく言い難い感覚に全身を包まれ、夢中のうちに塔橋をわたっていた。その出来事は『倫敦塔』の中で回想されている。

うす暗い十月の物静かな日である。セピア色の河面の空気は、まるで寝たらぬ夢の尾を曳かれるようであった。ふいに長い手が、対岸より伸びてきたのか。そう怪しまれた刹那、ぐいと引かれてロンドン塔の門をくぐり抜けていた。漱石が門の影に、まぼろしと視ていたのは、詩人ダンテが吟じた地獄めぐりの歌であった。

ゼーロンの会の上村清彦から、『リチャード三世』のポスターとチラシが送られてきたのは、まだ蝉時雨が降りしきる八月半ばであった。このシェイクスピア劇で演じられる人物たちは、ロンドン塔をめぐる漱石の幻視の中にも登場する。血塗られた十五世紀の英国貴人たちである。公演を告げる印刷物の、身も凍てつきそうなかぐるき色を目にした私は、何年かぶりに書棚から『倫敦塔』を取り出すことになった。

夏目漱石がロンドン塔で幻視をした地獄めぐりの歌には、以下のような文句が続いている。

我が前に物なし只無窮あり我は無窮に忍ぶものなり。  
この門を過ぎんとするものは一切の望(のぞみ)を捨てよ。

漱石の引用はここで終わっているが、詩人の言葉の続きを『神曲』の中に求めれば、果たして地獄の門に刻まれた言葉とは、その刻印自体が闇の色を持つものであったことを示している。私は、上村清彦の企みが、シェイクスピアやダンテ、明治の夏目漱石と、不敵な目配せを交わした上で始められていることを悟った。

十二月四日は、熊本へ足を運ぶことが楽しみでならない。

寺田幹太(「草獅子」編集人)

## 悪の貌

悪の貌がみえた。回収されることを拒み、資本にも、マスメディアにも、コンピュータネットワークにも、ましてやほどよい善にもコーティングされていない、剥きだしの、悪に全実存を賭した人間の貌が。世界への底深い憎しみを初発の動機として、権力の頂をめざして暴虐のかぎりをつくすリチャードの貌がまさにそれだ。その貌は醜悪の極みにおいてうつくしく、あるうことか敬虔な求道者のそれと相似をなすのである。だが、或る瞬間—そう、リチャードがついに王となり足下の世界を睥睨するとき、彼の貌は消失するのである。そこにわれわれがみるのは、あの類いまれな悪の貌ではなく、もはや人称をうしなった暗い穴でしかない。リチャードはリチャードでなくなった。いや、こういおう。われわれはそのとき、歴史がたちあがるのを目撃するのだと。

この度も多くの方々からの援助をいただいた。どのような謝辞も事足りない。ただただ瞑目するばかりである。

戦前の或る日に  
ゼーロンの会代表 上村 清彦

ゼーロンの会演劇公演「リチャード3世」収支決算書

ゼーロンの会代表

上村清彦

(1) 収入

(単位：円)

項目	金額	説明
自己負担金	232,069	
入場料	1,220,500	S_3500×193名 A_3000×181名
協賛金	450,000	
助成金	200,000	熊日文化スポーツ基金(10万) 熊本放送文化振興財団(10万)
合計	2,102,569	

## (2) 支出

項目	金額	説明
会場使用料	26,650	12月2日(金)仕込み 12月3日(土)仕込み・ゲネプロ 12月4日(日)本番・撤収
会場設備使用料	96,450	舞台設備・照明設備・音響設備・空調設備・楽屋等 (ゲネプロ・本番2回分)
照明業務委託費	193,968	照明プランニング料・照明機材レンタル料・オペレーター人件費
音響業務委託費	255,000	音響機材レンタル料 オペレーター人件費
舞台美術制作費	188,430	建築用足場レンタル料・設置、撤去人件費・ベニヤ板購入費等
舞台衣装制作費	198,878	服飾デザイナーYuriko氏に委託
マリオネット人形製作費(2体)	161,280	永武氏(福岡)に委託
舞台音楽委託費 (作曲・編曲・楽器編成・演奏)	200,000	作曲家光永浩一郎氏に委託(ピアノ・トロンボーン・パーカッション・尺八・フルート)
印刷費	285,336	ポスター・チラシ・チケット・プログラム
写真撮影・デザイン費	216,000	演者写真撮影料・印刷物デザイン料
招聘役者出演料・旅費・滞在費	170,000	ダンサー七感弥広彰氏(フランス)を招聘
通信・郵送費	4,063	
雑費	106,514	台本制作料・コピー代・燃料費 12月2、3、4日弁当代・受付アルバイト代
合計	2,102,569	